

製品名: UDP-GlcDH ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19604**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	UGDH
別名	UGDH; UDP-glucose 6-dehydrogenase; UDP-Glc dehydrogenase; UDP-GlcDH; UDPGDH
遺伝子 ID	7358.0
SwissProt ID	O60701
免疫原	抗血清はヒト UGDH 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 391-440

背景

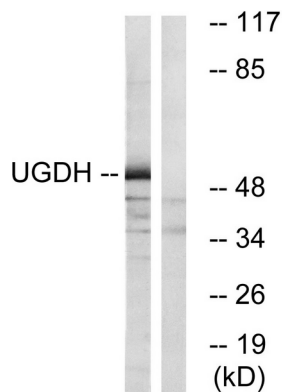
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、UDP-グルコースを UDP-グルクロン酸に変換し、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、ヘパラン硫酸などのグリコサミノグリカンの生合成に関与する。これらのグリコシル化化合物は細胞外マトリックスの一般的な

成分であり、シグナル伝達、細胞遊走、癌の増殖および転移に関与していると考えられる。この遺伝子の発現は、形質転換成長因子βによって上方制御され、低酸素によって下方制御される。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq提供、2010年5月]、触媒活性: $\text{UDP-グルコース} + 2 \text{NAD}(+) + \text{H}_2\text{O} = \text{UDP-グルクロン酸} + 2 \text{NADH}$ 、機能: グリコサミノグリカン、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、ヘパラン硫酸の生合成に関与する。経路: ヌクレオチド糖生合成; UDP-グルクロン酸生合成; UDP-グルコースからのUDP-グルクロン酸: ステップ 1/1。類似性: UDP-グルコース/GDP-マンノース脱水素酵素ファミリーに属する。サブユニット: ホモヘキサマー。

研究分野

ペントースとグルクロン酸の相互変換、アスコルビン酸とアルダル酸の代謝、デンプンとスクロースの代謝、アミノ糖とヌクレオチド糖の代謝。

画像データ



UGDH抗体を用いたCOLO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。